

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1学年 第2学年 第3学年	道徳 721 道徳 821 道徳 921	新しい道徳 1 新しい道徳 2 新しい道徳 3
取扱内容 〔学習指導要領の道徳〕及び 目標、内容等 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生命の尊厳について 第1学年では、命を形で表すとどのような形になるか、命の大切さやありがたさを実感したことにはどのようなことがあるかを考える活動等、第2学年では、生命を大切にするためにどのような気持ちが必要か、生命の尊さを心に刻んで生きていくためにはどのような気持ちが必要かを考える活動等、第3学年では、生まれてきた命とはどのようなものだと思うか、命を大切に生き抜いていくにはどのようなことが大切かを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 自然について 第1学年では、自然とのつながりを感じるのとはどのようなときかを考える活動等、第2学年では、野生の生き物などを含め自然とどのように関わっていくことが大切かを考える活動等、第3学年では、自分が関わっていくことができる自然を守る活動にはどのようなものがあるかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 伝統と文化について 第1学年では、郷土に住み、郷土の一員であることを実感できるのとはどのようなときかを考える活動等、第2学年では、郷土のために自分ができることはどのようなことかを考える活動等、第3学年では、自分たちの郷土にはどのような心が息づいているかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 情報化への対応について 第1学年では、インターネットを扱い、短文投稿サイトに友達の悪口を書くとどうなってしまうかを話し合う活動等、第2学年では、メッセージアプリを扱い、友達との友情を育てていく上で大切にしなければいけないことはどのようなことかを話し合う活動等、第3学年では、SNSを扱い、メッセージのやりとりを通して友達との関係をよりよくするために必要なことはどのようなことかを話し合う活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> </ul>			
内容の構成・排列、分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列 言語活動については、「話し合いの手引き」や「つぶやきコーナー」を配置し、問題解決的な学習については、教材冒頭の問題提起から解決を図る「考えてみよう」を配置し、体験的な学習については、役割演技による学習を示した「アクション」を配置するなど、生徒が多面的・多角的に思考できるよう工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量※ 第1学年～Aは8教材、Bは9教材、Cは15教材、Dは9教材、Eは4教材、全体で45教材あり、総ページ数は181ページとなっている。 第2学年～Aは7教材、Bは8教材、Cは15教材、D11教材、Eは4教材、全体で45教材あり、総ページ数は189ページとなっている。 第3学年～Aは7教材、Bは7教材、Cは18教材、Dは9教材、Eは4教材、全体で45教材あり、総ページ数は189ページとなっている。</li> </ul>			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年に、学期ごとに学習の記録を残すことができる「自分の学びをふり返ろう」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒が自らを振り返るための工夫がなされている。</li> <li>○ 各学年に、自分が住む地域について考えるきっかけとなる「郷土のことを考える」を配置し、家庭や地域との連携を深めるための工夫がなされている。</li> <li>○ 道徳の学習の進め方を示すページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどを採用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>			
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北海道と関連のある教材は『『どうせ無理』という言葉に負けない』など8箇所取り上げられている。</li> <li>○ いじめ問題については、友情を育てていく上で大切にしなければいけないことは何かを考える活動等を取り上げている。</li> </ul>			

※ 「内容の構成・排列、分量等」の「内容の分量」のAは「主として自分自身に関する事」、Bは「主として人との関わりに関する事」、Cは「主として集団や社会との関わりに関する事」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。